報告日　令和6年5月23日
報告回次　　1日目

令和６年度　地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

１．申請団体情報

１－１．申請団体

団体名	静岡大学情報学部			代表者名	笹原　恵
担当者部署(属性)	その他	担当者部署名	地域連携推進室	連絡先電話番号	053-478-1533
担当者役職	准教授	担当者氏名	藤岡伸明	連絡先E-mail	
住所	432-8011　静岡県浜松市中央区城北3-5-1				

１－２．推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名	浜松市	連絡先部署	広聴広報課		
担当者氏名	原　賢輔	連絡先電話番号	053-457-2021	連絡先E-mail	

１－３．支援を求める内容

支援方法	具体的課題への支援	事業名	アイデアソン・データソン
概要	オープンデータの利活用をテーマとするアイデアソン・データソンにおけるファシリテーター		
支援を求める分野	オープンデータ		

２．地域情報化アドバイザー派遣実績

２－１．対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和6年5月18日	支援・助言(実地)	9時30分	17時30分	60
				活動時間（分）	420

２－２．派遣場所	会場名	静岡大学浜松キャンパス	最寄駅	浜松駅
	所在地	静岡県浜松市中央区城北3-5-1	最寄駅からの交通手段	バス

３．派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	市川　博之
評価	大変よい
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	5/18のアイデアソンは，静岡大学浜松キャンパスにて，静岡大学の学生19名，静岡文化芸術大学の学生2名，一般社団法人シビックテックラボの若手スタッフ2名，計23名の参加者を集めて実施された。当初は参加者に緊張した様子が見られたものの，市川氏の巧みなファシリテーションにより次第に緊張が解け，活発なディスカッションとグループワークが行われた。特に，冒頭に行った3人1組のプレインライティングは参加者同士の対話を促し，その後のアイデア出しとミニプレゼンテーションを活発に行うための素地を作っていた。グループに分かれての課題分析・アイデア発展の段階においては，国，自治体，企業，大学等が持つ様々なオープンデータを適切なタイミングで紹介し，壁にぶつかった参加者が自分たちで壁を乗り越えられるよう巧みに後押しするシーンが随所に見られた。
アドバイザーへの要望事項	特になし。

４．依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

４－１．支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】		合計人数	23人
属性	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
人数	0	0	2	21

４－２．支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	今回実施するアイデアソン＆データソンでは，参加者（大学生を中心とする若年層）の立場から幸福な状態（Well-being）を定義し，若者にとって幸福な状態と浜松地域の実態を照らし合わせながら地域課題を発見・分析し，その解決策を考案する。この過程において，Well-being指標を中心にオープンデータを有効活用することをめざす。しかしながら，大学生は日常生活でWell-being指標やオープンデータを意識することがほとんどないため，まずWell-being指標やオープンデータとは何かを理解し，どのようなデータを利用して何を明らかにすることが可能か（あるいは不可能か）を学ぶ必要がある。
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	1日目のアイデアソンでは，参加者がWell-being指標やオープンデータとは何かを理解し，どのようなデータの利用が可能かを理解してもらうことを第一の目標とした。その上で，Well-being指標を用いて参加者の幸福について考えたり，同指標を活用しながら地域課題の発見・分析を行ったりできるようになることをめざした。

アドバイザーに支援を受けた内容 （具体的にご記入下さい）	Well-being指標の詳細とその背後にあるデジタル田園都市国家構想について，浜松市デジタル・スマートシティ推進課の協力も得ながら丁寧にご指導いただいた。また，Well-being指標のほかにも様々なオープンデータおよびそのポータルサイトがあることをご教示いただいた。具体的には，e-Stat，RESAS，自治体レベルではふじのくにデータカタログや各自治体のデータサイト，そしてトヨタ，デンソー，遠州鉄道といった民間企業が持つ公開・非公開のデータなどについて，その活用の仕方も示唆しながら丁寧にご説明いただいた。
支援を受け改善又は解決された内容 （具体的にご記入下さい）	そもそもWell-being指標についてほとんど知らず，オープンデータの活用方法も分からなかった参加者が，Well-being指標やオープンデータについて理解し，それらを用いて自分自身の幸福について考えたり，地域課題を発見・分析したりできるという認識に至ったことが大きな収穫と言える。ひとたびこのような認識に至れば，今後は参加者自身が自ら必要なデータを検索し，その活用方法を検討することができるようになる。多くの参加者がそのような認識に到達できたことがアイデアソンの成果と言える。
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。 ⑦その他 23名の参加者が，関心を共有する6つのチームに分かれて関心のある地域課題を分析し，ワークシートにまとめた。1日目の成果物はこのワークシートである。このワークシートをもとに，2日目のデータソンに臨む。
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 （具体的にご記入ください）	1日目のアイデアソンでは，Well-being指標とオープンデータに関する基礎知識の習得と，それらを用いた地域課題の発見に主眼が置かれたため，様々なデータを活用して地域課題を詳細に分析したり，その解決策を多面的に検討するところまでは至らなかった。この続きを2日目（6/1）のデータソンで取り組む。
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。（ＥＸＣＥＬやＰＤＦでの分析結果を添付されても結構です。） アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 2日目のデータソン終了時にアンケートを実施する予定。
４－３．今後の計画	最も当てはまるものリストより選択下さい ⑤その他 同様のアイデアソン＆データソンを毎年度実施する予定である。本イベントの参加者がアーバンデータチャレンジや自治体のハッカソンといったコンテストに出場し，コンスタントに優秀な成績を収められるようになることをめざす。
４－４．事業の最終的な目指す姿	本イベントの参加者である大学生や若年層が地域課題への理解を深め，課題解決に向けたよりよいアイデアを創出するためにオープンデータを効果的に活用できるようになること。特に参加者がオープンデータの活用を目的とするのではなく地域課題の分析・解決のための手段として使いこなせるようになることをめざす。また，本イベントを通じて地域課題を自分事として捉えるような主体的姿勢を持つ若者を育成したい。このように，オープンデータを手段として使いこなす知識・スキルと，地域課題に対する主体的姿勢を兼ね備えた若者を多数育成することにより，オープンデータのポテンシャルが若い層からボトムアップ的に発揮・開花されるような活力ある地域社会を創造することが本事業の最終目標である。

5.報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good_practices/past_year_all_houkoku/

掲載許可	○掲載可

なお＜その他＞を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意下さい

6．地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG）」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

アイデアソン・データソンの進め方を説明する市川氏

ブレインライティングの様子

グループ分けの様子：全員が全員のアイデアシートを見て，良いと思ったものに☆をつける。
☆の数が多いシートを各グループのアイデアとする

グループワークの様子：歩行者天国で活気ある街中を創出するというアイデアについて話し合っている